

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2014年2月1日(土)、2013年度第5回大会委員会が開催された。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2014年度春季大会(創価大学)準備の進捗状況について

使用教室の手配状況、当日のタイムスケジュールを確認した。また、調査研究推進委員会によるセミナーについて承認し、タイムテーブル上の枠を決定した。

2. 大会委員会企画パネルセッションについて

大会委員会企画パネルセッション「産出のための文法について考える―受身を例として―」の実施を承認し、開会式・授賞式に引き続き実施することを決定した。

3. 2014年度春季大会発表者の選考について

審査の結果、口頭発表39件、ポスター発表23件、パネルセッション4件、デモンストレーション発表5件を採択した。審査後、不採択者に送付するコメント執筆担当者、コメント取りまとめ担当者、発表会場の割振り案作成担当者などを決定した。

4. 2014年度秋季大会(富山国際会議場)の企画・運営について

同時開催の企画として、大会前日金曜には教師研修委員会との連携による地域関係者向けのイベントを、土曜の夜には若手研究者(大学院生を含む)向けのイベントを行うことを確認し、具体的な企画に関する説明、意見交換を行った。また、教材紹介コーナーの開催案を検討した。

5. 大会研究発表規定の改定について

発表要旨の項目の見直し、発表履歴の記載欄の設定、パネルセッションへの複数応募を不可とすることに関し検討し、これらの事項に関する規定の改定を承認した。

6. 大会運営検討ワーキンググループ(WG)の報告について

昨年7月に設置された幅広い層の参加者に資する大会運営に関する検討のためのWGによる提案について、WGチーフの大島副委員長および庵委員長から報告があった。今後、委員会内での継続審議を経て、この提案を理事会に提出する意向である。

7. 2015年度春季大会以降の企画・運営について

依山副委員長から、2012年日本語教育国際研究大会で導入された大会登録システムの春秋大会における利用の検討について提起があった。今後、委員会内での継続審議を経て、委員会としての意向を決定する予定である。

次回の委員会予定：2014年6月1日(日)

(庵功雄)

● 学会誌委員会

2014年3月8日(土)午後1時~5時15分、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。

157号・158号の刊行準備進捗状況、第9回第9回林大記念論文賞の授賞論文の決定、常任理事会における学会誌委員会関連事項の検討状況、156号誤植対応と今後の対応方針などの報告の後、以下の審議が行われた。

1. 158号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼候補の決定。
2. 158号投稿論文(投稿総数32本(研究論文12、調査報告9、実践報告5、研究ノート6))の審査。
3. 投稿論文における引用文献等の記載に関する指針の承認。
4. 162号特集(2015年12月号)に関する検討。
5. 学会誌委員会設置運営規程案の承認。

次回委員会予定：2014年7月5日(土)

(齋藤ひろみ)

● 研究集会委員会

◆ 研究集会実施報告

1. 2013年度第7回研究集会(中国地区)

日時：2013年11月9日(土)10:00-16:50

会場：島根大学松江キャンパス教育学部棟

参加人数：53名(会員31名、一般22名)

内容：講演、研究発表(口頭8件、ポスター7件)、活動報告(口頭2件)

講演講師：加納千恵子氏(筑波大学)「外国人日本語学習者の漢字力の評価を考える―運用力のテスト、診断テストおよびCan-do Statementsによる評価―」

島根会場の冬の天候を考慮し、例年より1か月早い開催となったが、幸い50名を越える参加者が中国地方のみならず日本各地や海外からも得られた。2会場で行われた研究発表と活動報告のテーマは、習得研究、調査研究、教育実践に関する研究や教材開発など多岐にわたるもので、各会場で質疑応答も活発に行われた。ポスター発表は午前と午後の口頭発表を挟む昼食の時間帯に設定されたが、会場には絶え間なく来場者があった。テーマは地域の日本語教室の教材から文法やテストなど幅広く、熱心な発表や質疑、情報交換などが盛んに行われ、参加者からは「会場はコミュニケーションが取りやすく勉強になった」などの声があった。

加納氏による講演では、漢字力の評価は従来のような

「読み」と「書き」の知識だけを問うテストではなく、漢字に関する知識の分析的な評価や運用力の評価が必要であるということが示された。関連して、筑波大学で開発されたTTBJ(筑波日本語テスト集)漢字テストのデモンストレーションも行われ、具体的なテストの利用法や概要がわかりやすく説明された。

(報告者：中園博美)

2. 2013年度第8回研究会(東北地区)

日時：2013年11月16日(土) 11:00-17:40

会場：東北大学川内北キャンパス

参加人数：51名(会員31名、一般18名、不明2名)

内容：ワークショップ、研究発表(口頭8件)

ワークショップ講師：大島弥生氏(東京海洋大学)「相互学習を取り入れたライティング指導—グループワークを通じて考える—」

海外を含む各地からの応募者に恵まれ、午前・午後ともに二会場に分かれて8件の口頭発表が行われた。発表内容も、留学生の農業体験活動や語彙習得、外国人児童の日本語支援、外国人観光客の受け入れ、コーパス分析、日本語教育実習、移住労働者の言語習得など多岐にわたった。

ワークショップでは、グループワークを実際に経験しながら、ライティング指導について講師と参加者、参加者同士の間で活発な意見交換が行われた。参加者は日本語教師だけでなく、大学学部生、大学院生、英語教育関係者等、背景知識も経験も様々な方々であった。集会后のアンケートでは、充実した内容で時間が短く感じたという感想が聞かれた。

(報告者名：菅谷奈津恵)

3. 2013年度第9回研究会(四国地区)

日時：2013年11月30日(土) 10:00-17:10

会場：愛媛大学 城北キャンパス 共通教育講義棟

参加人数：157名(会員40名、一般117名)

内容：講演、研究発表(口頭15件)、企画パネルセッション、四国地区日本語ボランティア団体ポスター展示(香川県1、徳島県2、高知県2、愛媛県13の計18件)。

講演講師：伊東祐郎氏(東京外国語大学)「日本語教育とボランティア—日本語学習者と共に活動を行うために—」。企画パネルセッション「多様な視点から考える地域日本語活動」コーディネーター：伊東祐郎氏(東京外国語大学)、パネリスト：宇野章氏(東和工業株式会社)、大津清次氏(株式会社地域法人 無茶々園)、大森典子氏(愛媛県国際交流協会)、小椋由紀子氏(松山市立東中学校)、敷村弥生氏(まつやま国際交流センター)。

今回の研究会は「地域における外国人との日本語活動」をテーマに、講演、研究発表、企画パネルセッション、ポスター展示による活動報告の4部構成で行った。

研究発表は四国地区からだけではなく関東、東北、そして国内のみならず、アメリカからの2件も含め15件の

発表があった。また、企画パネルセッションでは、地域の外国人と関わる企業・行政・教育機関からの事例紹介を得ることで、日本語教育以外の視点による地域の外国人への支援体制の現状が確認できた。活動報告はポスター展示依頼の段階で、いくつかの団体を直接訪ねて参加を依頼するという方策をとったが、その甲斐あってか、18団体の参加を得ることができた。特に、愛媛県内のポスター展示参加ボランティア団体の多くが研究会にも参加し、研究会が地域の人々にとって身近になったという意義は大きい。四国地区の日本語ボランティア団体の会員が一般参加者の3割以上を占めており、アンケートでは、ボランティア団体同士の実質的な交流ができる場として今後の会に期待したいという意見も多く見られた。

(報告者：高橋志野)

◆ 2014年度の研究会予定

1. 第1回研究会(九州・沖縄地区)

日時：2014年6月14日(土)、15日(日)

会場：鹿児島大学群元キャンパス

講演・ワークショップ講師：中川千恵子氏(早稲田大学)「イントネーションに焦点を置いた発音指導法—学習者も教師もできる方法を目指して—」

※発表応募は締め切りました。

2. 第2回研究会(北陸地区)

日時：2014年6月21日(土)

会場：福井大学文京キャンパス

講演・ワークショップ講師：荒川洋平氏(東京外国語大学)講演「外国人への接し方と話し方—日本語教育の根っこを考えよう—」、ワークショップ「やさしい日本語を使ったコミュニケーションの練習と振り返り」

※発表応募は締め切りました。

3. 第3回研究会(中部地区)

日時：2014年7月5日(土)

会場：愛知大学名古屋キャンパス

講演講師：細川秀雄氏(早稲田大学名誉教授/言語文化教育研究所八ヶ岳アカデミア・代表)「今、なぜ活動型日本語教育なのか—ことばの教育の課題と展望—」

※発表応募は締め切りました。

4. 第4回研究会(北海道地区)

日時：2014年7月5日(土)

会場：北海道大学

ワークショップ講師：小山悟氏(九州大学)「習得研究の知見を生かした教案作成—わかりやすく、楽しく、役に立つ授業—」

※発表応募は締め切りました。

5. 第5回研究会(関東地区)「実践研究フォーラム」

日時：2014年8月2日(土)、3日(日)

会場：東京外国語大学府中キャンパス

実践研究フォーラムについては別途ホームページをご

覧ください。

<http://www.nkg.or.jp/kenkyu/Forum/kk-Forum.htm>

※発表応募は締め切りました。

6. 第6回研究会（関西地区）

日時：2014年9月6日（土）

会場：大阪YMCA国際専門学校日本語学科（土佐堀会館）

発表応募締切：5月9日（金）

7. 第7回研究会（四国地区）

日時：2014年11月8日（土）

会場：鳴門教育大学

発表応募締切：8月1日（金）

8. 第8回研究会（東北地区）

日時：2014年11月15日（土）

会場：盛岡大学

講演講師：小原義朗氏（北海道大学）「ペア活動を取り入れた読解指導」

発表応募締切：8月8日（金）

9. 第9回研究会（中国地区）

日時：2014年12月20日（土）

会場：岡山大学

講演講師：伊東祐郎氏（東京外国語大学）

発表応募締切：8月予定

10. 第10回研究会（関西地区）

日時：2015年3月予定

会場：京都予定

発表応募締切：11月予定

※各地区研究会のプログラム、発表要旨、発表募集情報は、日本語教育学会ウェブサイトの研究会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

◆会議記録

1. 関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）

(1) 2013年度第7回関東地区委員会（2014年3月24日）

◆次回会議日程

1. 全体委員会

2014年度第1回研究会全体委員会（2014年6月1日、創価大学（春季大会会場））

2. 地区代表者会議

2014年度地区代表者会議（日時未定）

3. 関東地区委員会

2014年度第1回関東地区委員会（2014年4月19日）

● 教師研修委員会

◆研修実施報告

1. 異文化理解教育ワークショップ「日本イメージからみたコンフリクトと解決」

講師：加賀美常美代氏（お茶の水女子大学）

開催日：2013年12月14日（土）

会場：東京大学本郷キャンパス 参加者：23名

2. タスク作りから考えるビジネス日本語教育

講師：近藤彩氏（政策研究大学院大学）

開催日：2014年1月18日（土）

会場：政策研究大学院大学 参加者：30名

3. 教室活動のデザインVI「初級授業の設計図—実践の共有を目指して—」

講師：奥村三菜子氏（お茶の水女子大学）

開催日：2014年3月8日（土）

会場：東京大学駒場Iキャンパス 参加者：22名

4. 日本語教師のためのオンラインIT講座

講師：中澤一亮氏（台湾・元智大学）、監修：畑佐一味氏（米国・パデュー大学）

開催日：2014年1月27日（月）～3月21日（金）

参加者：4名

◆2014年度の研修予定

1. JSLバンドスケール・ワークショップ—児童生徒のこ とばの力をどう把握し、実践をデザインするか—

講師：川上郁雄氏（早稲田大学）

開催日：2014年6月29日（日）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス 定員：50名

2. 夏季集中研修「教える・学ぶ・考える」

（ワークショップテーマは評価／会話を予定）

開催日：2014年8月9日（土）、8月10日（日）

会場：東京大学本郷キャンパス 定員：60名

3. 質的研究法

開催日：2014年9月または10月予定、会場：未定

4. ブレンド型学習

開催日：2014年11月または12月予定、会場：未定

5. 教室活動のデザインVII「授業デザイン理論から日本語授業を再考する」（仮題）

開催日：2015年1月、2月または3月予定、会場：未定

6. 日本語教師のためのオンラインIT講座

開催日：2015年1月～3月予定 定員：10名

7. その他に2014年度中に、小規模な勉強会（日本語アトリエNKG）を数回開催予定。

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルや日時、会場等が変更する場合もございます。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

1. 2013年度第4回教師研修委員会（2013年12月7日）

- (1) 研修実施報告
- (2) 2013年度研修の進捗状況報告および検討
- (3) 今期教師研修委員会のコンセプトおよび2014年度研修計画の作成
- (4) 教師研修委員会規程について
- (5) 次回および来年度会議日程

2. 2013年度第5回教師研修委員会（2014年2月1日）

- (1) 研修実施報告
- (2) 2013年度研修の進捗状況
- (3) 2014年度夏季集中研修について
- (4) 2014年度の各研修企画について
- (5) 2014年度秋季大会（富山）での大会委員企画への協力について
- (6) 委員の遠方への勤務地／居住地変更について
- (7) 2014年度会議日程

◆次回会議日程

1. 2014年度第1回教師研修委員会（2014年5月17日）

（館岡洋子）

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2014（平成26）年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店（普）130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払（海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください）。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係（kaiin@nkg.or.jp）までお問合せください。

<年度会費>

- 普通会員 10,000円（年度額）
- 賛助会員 一口50,000円（年度額）

● 住所等の変更について

所定の書式（90ページ）にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX：03-5216-7552／E-mail：kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用：gakkaishi@nkg.or.jp

● お詫びと訂正

『日本語教育』156号に掲載された次の研究論文において、二つの図が入れ替わるという誤りがございました。入稿後の編集・印刷作業におけるミスによるものです。心よりお詫びし、訂正申し上げます。

論文：福田純也・稲垣俊史氏執筆

「上級日本語学習者による目的を表す『ために』と『よ

うに』の習得—『ために』の過剰般化は中国語話者に特有か—」 pp. 31-44

<訂正事項>

訂正箇所：p. 39の図2と図3

※訂正済みの2つの図表は下記のとおりです。

誤り1：図2 質問項目別「タメニ総容認率」

→ 正しくは 図3 質問項目別「タメニのみ容認率」

誤り2：図3 質問項目別「タメニのみ容認率」

→ 正しくは 図2 質問項目別「タメニ総容認率」

また、図の配置が上下逆転しています。

→ 正しくは、タイトル訂正後、(訂正後の) 図2が上、(訂正後の) 図3が下

『日本語教育』156号

P. 39 図2, 図3

正：

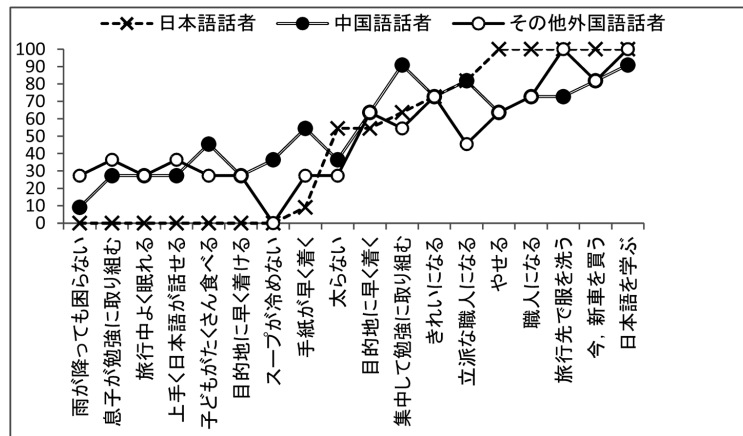


図2 質問項目別「タメニ総容認率」

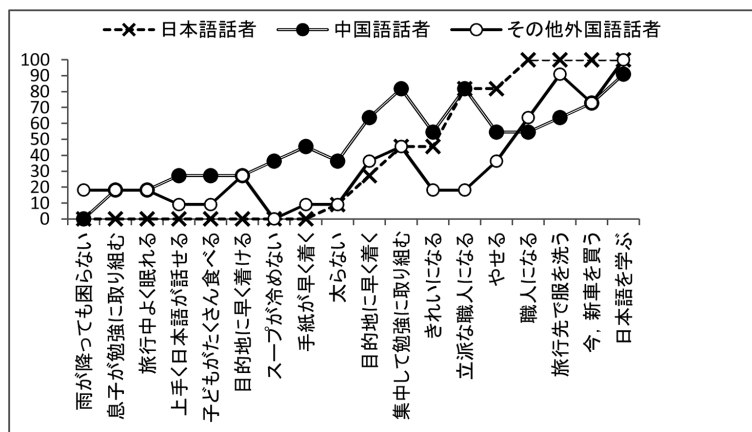


図3 質問項目別「タメニのみ容認率」